

B1 ミニコンシンポジウム報告

和田 英一 (東京大学工学部)

1972年の夏のシンポジウムは「システム評価」と「ミニコンのソフトウェアとネットワーク」に関するもののみであった。このうち「ミニコン」の方はどうしてこのようなテーマがきめられたかという点、IFIP(情報処理国際連盟)のTC2(第2技術委員会)で「Working Conference on Software for minicomputers and Computer Network」がすでに1年以上もまえから提案になっており、この際これは面白そうなテーマだからこれを借用してやってみるのはどうかという発想による。そしてこのシンポジウムの幹事として中西と和田がえらばれた。

このテーマは構文解析が必ずしも一意にきまらない難点があったが、(この事情は実は本案のTC2のテーマでも同様である。)出席者に適当に解釈してもらおうという、大変無責任なことをきめ(幹事はミニコンピュータの(ソフトウェアとネットワーク)と解釈した。)、日時、場所の選定にかかった。日時の方は「システム評価」が手まわしよく7月上旬をえらんでしまったので、こちらは7月17日(月)~19日(水)の2泊3日とした。会場は今まで我々のシンポジウムをやったことのないところで、あまり会場費の高くないところ、しかも関西方面からの出席者にも便利であるという条件で探したが、最後の条件には合わないこととなったけれども、東大理学部植物学教室の附属植物園の日光分園を借用することにした。日光植物園は入ってしまうとまったく別天地にいるようで、環境はすばらしくよいのだが、もともとこのようなシンポジウムのできるような施設ではないので、そのため参加人員を大幅に制限せざるを得ないことになった。そのかわり少人数の参加者によるインテンシブな会合の目的は十分達せられたように思う。

まず参加者はつぎの通りである。

井上 聡(三菱電機中央研究所)、大槻 説平(九州大学中央計数施設)、葛山 善基(大阪大学基礎工学部)、勝又 裕(東京大学工学部)、加藤 道子(東京芝浦電気)、川合 慧(東京大学理学部)、岸 健一(東京大学生産技術研究所)、鈴木 則久(東京大学生産技術研究所)、高橋 義造(東京芝浦電気)、武市 正人(東京大学工学部)、戸川 隼人(東京産業大学)、所 真理雄(慶応義塾大学工学部)、成川 武文(三菱電機中央研究所)、前野 年紀(立教大学理学部)、幹事 中西 正和(慶応義塾大学工学部)、和田 英一(東京大学工学部)

プログラムは大別するとミニコンでシステムプログラムを作ってみたというような話と周辺機器等を共用するためミニコンを接続してみたというような話となる。今回も出席者全員が話をするようになっていたが資料は必ずしも全部の講演に対して揃っていたわけではなかった。つぎに発表を順に記しておく。

・国内取材報告(開会のスピーチ)

戸川 隼人

・ミニコンピュータむきアレイ処理言法

所 真理雄

(論理回路のシミュレーションなどを目的としたミニコンによるアレイ処理用言法のシンタックス、セマンティックスデータ構造についてのアイディア。)

・ミニコンLISPの提案 中西 正和

(ミニコンにLISPをインプリメントする場合の考察)

・ミニコンにおけるLISPとPLANNER

鈴木 則久

(PDP-8のLISPを使って簡単なPLANNER流の制御プログラムを作成し、使用してみた経験談)

・C. Strachey のGPMについて

前野 年紀

(Strachey のGPM (ジェネラルパーバスマクロ)をHitac-10 でインプリメントした話)

・Minieditor とMinitypist

和田 英一

(Macc 7/SにIBMのホールエレメントのタイプライタを接続し、手紙その他の原稿のエディット、そのきれいなタイプアウトをするプログラム)

・マルチユーザーサービス (FORTRAN) (EDITOR)

加藤 道子

(TOSBAC-40のマルチユーザーサービスで使用されるMUSEという名のエディタとFORTRAN (MUSEとはマルチユーザーの意))

・エディタと言語プロセッサの結合

武市 正人

(Macc-7/Sのエディタと言語プロセッサを結合し、エディットしたファイルを直ちにコンパイルまたはアセンブルする方式)

・ダイナミックマイクロプロセッサ

岸 健一 堀 清彦

鈴木 則久

(PDP-8/eにおけるダイナミックマイクロプログラミングシステムの試作)

・^{高橋}周辺装置の共用と作業分担 川合 慧

(高橋・後藤研におけるFACOM 270/20とTOSBAC 40のMODEMによる接続実験)

・カラー・グラフィック・ディスプレイ・システム

川合 慧

(TOBAC-40にディスクメモリーとカラーテレビをつけたカラーディスプレイの実験)

・ミニコンネットワークの応用 高橋 義造

・PDP 11 デュアルシステムにおけるリソースシェアのためのプログラムの試作

葛山 善基

(PDP-11 2台よりなるシステムの接続実験)

・工作機械制御用のプロセッサネットワーク

山田 能成

(工作機械制御に適したミニコンのネットワークと言語についての考察)

・三菱電機中研におけるミニコン・ネットワークの試み

井上 驍

成川 武文

(PDP-15, PDP-11, Super Nova, M-5 F(自作のミニコン)をPDP-11のUNIBUS経由で接続した実験)

・共通母線による結合方式 勝 又 裕

(時間的切換えのみによる共通母線方式でFACOM 270/20に2台のFACOMRを接続した実験)

・ミニコンピュータの来し方, 行く末(閉会のスピーチ)

大 槻 説 平

これだけの発表を1日目の昼すぎから3日目の昼までかけ, 途中ネムの木の観察やアリジゴクのいたずらをまじえながら, 楽しく消化したのであった.

なおTC-2のWorking conferenceは一応ハンガリーのDömölki氏と日本の森口先生が幹事のようなことになっているが, 1972年9月のTC2委員会ではまだ日程の検討なども行なわれず, 1975年頃に開かれるのではないかと予想される. 場所はほぼBudapestにきまっている.

本 PDF ファイルは 1965 年発行の「第 6 回プログラミング—シンポジウム報告集」をスキャンし、項目ごとに整理して、情報処理学会電子図書館「情報学広場」に掲載するものです。

この出版物は情報処理学会への著作権譲渡がなされていませんが、情報処理学会公式 Web サイトの https://www.ipsj.or.jp/topics/Past_reports.html に下記「過去のプログラミング・シンポジウム報告集の利用許諾について」を掲載して、権利者の検索をおこないました。そのうえで同意をいただいたもの、お申し出のなかったものを掲載しています。

過去のプログラミング・シンポジウム報告集の利用許諾について

情報処理学会発行の出版物著作権は平成 12 年から情報処理学会著作権規程に従い、学会に帰属することになっています。

プログラミング・シンポジウムの報告集は、情報処理学会と設立の事情が異なるため、この改訂がシンポジウム内部で徹底しておらず、情報処理学会の他の出版物が情報学広場 (=情報処理学会電子図書館) で公開されているにも拘らず、古い報告集には公開されていないものが少からずありました。

プログラミング・シンポジウムは昭和 59 年に情報処理学会の一部門になりましたが、それ以前の報告集も含め、この度学会の他の出版物と同様の扱いにしたいと考えます。過去のすべての報告集の論文について、著作権者（論文を執筆された故人の相続人）を探し出して利用許諾に関する同意を頂くことは困難ですので、一定期間の権利者搜索の努力をしたうえで、著作権者が見つからない場合も論文を情報学広場に掲載させていただきたいと思えます。その後、著作権者が発見され、情報学広場への掲載の継続に同意が得られなかった場合には、当該論文については、掲載を停止致します。

この措置にご意見のある方は、プログラミング・シンポジウムの辻尚史運営委員長 (tsuji@math.s.chiba-u.ac.jp) までお申し出ください。

加えて、著作権者について情報をお持ちの方は事務局まで情報をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

期間：2020 年 12 月 18 日～2021 年 3 月 19 日

掲載日：2020 年 12 月 18 日

プログラミング・シンポジウム委員会

情報処理学会著作権規程

<https://www.ipsj.or.jp/copyright/ronbun/copyright.html>